

「兵戈無用」

コロナの感染者数が、第七波は過去最多となっています。熊本県も先月下旬に四千人超を記録しました。今まで以上に注意しましょう。

さて、八月十五日は「終戦記念日」です。戦争当時の状況は、「金属を提出せよ」の命令に、寺院の梵鐘の供出を余儀なくされました。これらの金属は、敵国を攻撃するための兵器や砲弾に姿を変えていったのです。『仏説無量寿経』というお経の中に、「正覚大音 響流十方」と

いう文句があります。「真実の声は、全ての世界に響きを流布する」という意味です。教えをその音に乗せて遠くまで知らしめるための梵鐘が、人の生命を脅かす兵器になったことは、辛い限りです。お寺の鐘の音の中に悲しい歴史があることを忘れないようにしたいものです。また、八十年前の戦争に限らず、現在もロシアとウクライナの間に、戦争が行われているのは世界中で周知のことです。二月以降、ミサイル攻撃や、人々が

戦火を逃れる様子、戦争反対を主張すれば逮捕される様子などがテレビで映し出されます。こんな映像見たくないと言っても、その場面の映像は消えますが、その現実には決して消えないのです。私たちは「目をそむけてはいけない」のです。遠いウクライナで起こっていることは、決して遠い国の話や他人ごとではないと思います。人と人との諍いから国同士の間で、「争い」というものはつまるどころ、我欲がぶつかりあい、お互いに「自分が正しい」と主張し合っているのです。「世の中は持ちつ持たれつ」であることも気付かず、相手の都合を考えずに自分の主張ばかりを押し

つけるのが「争い」の本質です。勝つたとしても、敗者の恨みを買い、仕返しにおびえます。勝つても負けても「争う」のは何の解決にもなりません。同じく『仏説無量寿経』というお経には、「兵戈無用」という言葉が出てきます。「軍隊も武器もいらぬ」という意味です。仏さまが巡り歩く国々には、仏法のはたらきで争いは起こらないというのです。私たちは、自他を傷つけあう「争い」の愚かさを自覚することができません。まずは自分自身が、仏法を聞き、世の中平和であれと願う生き方、互いの存在を認め合い、「ともに」生きていくことを大切にしたいものです。